

環境啓発

ごみの減量化や資源化の大切さを伝える場として、「見学コース」や「展示スペース」等を設置します。



見学コース



展示スペース

工事中の安全対策

周辺の生活環境に十分配慮し、周辺の交通安全、現場安全管理、騒音・振動等に万全の対策を講じます。

- ① 工事車両の出入口には、交通誘導員を配置します。
- ② 工事用車両の待機は建設地内で行います。
- ③ 低騒音・低振動型機械を採用し、騒音・振動の発生を抑制します。
- ④ 工事車両は建設地内で洗車を行い、車輪・車体等に付着した土砂を除去したあとに退出します。
- ⑤ 工事中の排水は、排水処理設備等を設けて十分な処理を行い、排水します。

工事工程表

年/月	平成28年				平成29年												平成30年												平成31年												平成32年			
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
設計																																												
建設工事																																												
試運転																																												
供用																																												

問合せ先

宇都宮市 環境部 廃棄物処理施設整備室

TEL/028-632-2830 FAX/028-632-3316

E-mail/u35003003@city.utsunomiya.tochigi.jp



宇都宮市新中間処理施設 (仮称)新北清掃センター建設工事

工事概要

- 工 事 名：宇都宮市新中間処理施設
(仮称)新北清掃センター建設工事
- 設 計・施 工：川崎技研大豊渡辺増淵建設
共同企業体
- 設 計・施 工 監 理：株式会社日産技術コンサルタント
- 事 業 主 体：宇都宮市(公設公営)
- 施 設 規 模：190t/日(95t/日×2炉)
- 敷 地 面 積：約19,300㎡
- 設 施 の 種 類：ごみ発電施設(ごみ焼却施設)

施設コンセプト

① 安心で信頼される施設

- 安全かつ安定的に稼働する施設とします。
- 排ガスや臭気等の対策が万全な施設とします。
- 環境モニタリング情報を市民に分かり易く提供します。

③ 地域と調和した施設

- 田園風景と調和した緑豊かな施設とします。
- 開放感があり身近に感じられる施設とします。

② 安定した処理が持続可能な施設

- 災害に強い施設とします。
- 長期的利用が可能な施設とします。
- 維持管理コストを抑えた経済性の高い施設とします。

④ もったいないの心を未来につなげる施設

- ごみの減量化や資源化の大切さを伝える場とします。
- ごみの焼却による熱エネルギーを最大限に利用します。
- 再生可能エネルギーの有効利用に努めます。



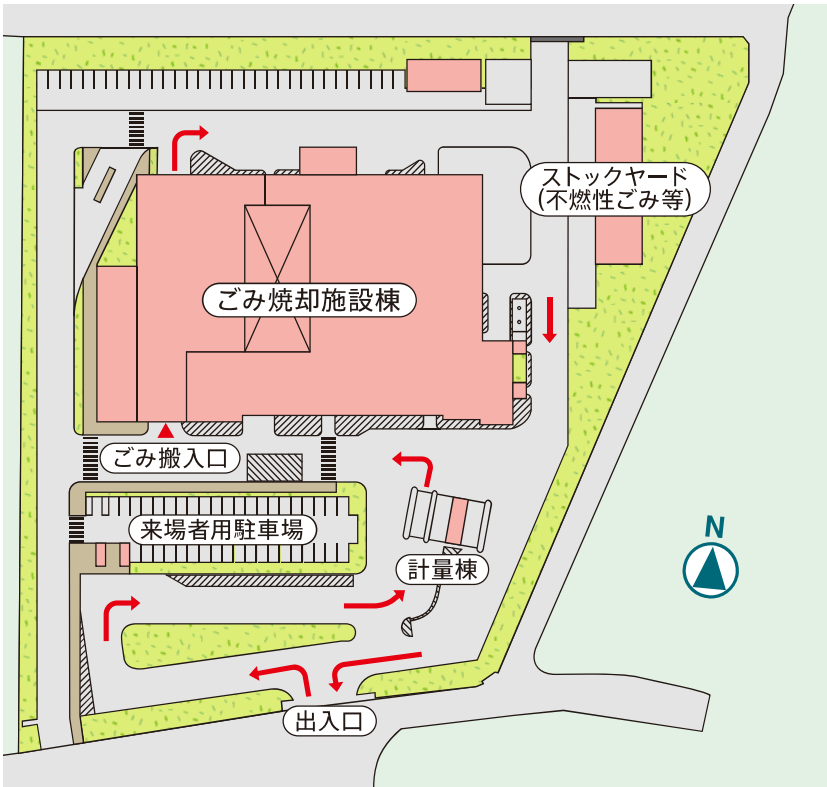
設備概要

- 焼却炉形式：全連続燃焼式焼却炉（ストーカ式）
- 処理対象物：焼却ごみ、可燃性粗大ごみ
- 燃焼ガス冷却設備：廃熱ボイラ、エコマイザ
- 排ガス処理設備：減温塔、乾式有害ガス除去装置、ろ過式集じん器、触媒脱硝装置
- 通風設備：押込送風機、誘引送風機（平衡通風方式）
- 発電設備：蒸気タービン発電機（定格出力3,200kW以上）
- 灰出設備（焼却灰）：灰押し出し装置、灰ピット（半湿式処理）
- 灰出設備（飛灰）：飛灰貯留槽、混練機、飛灰固化物ピット（薬剤処理）

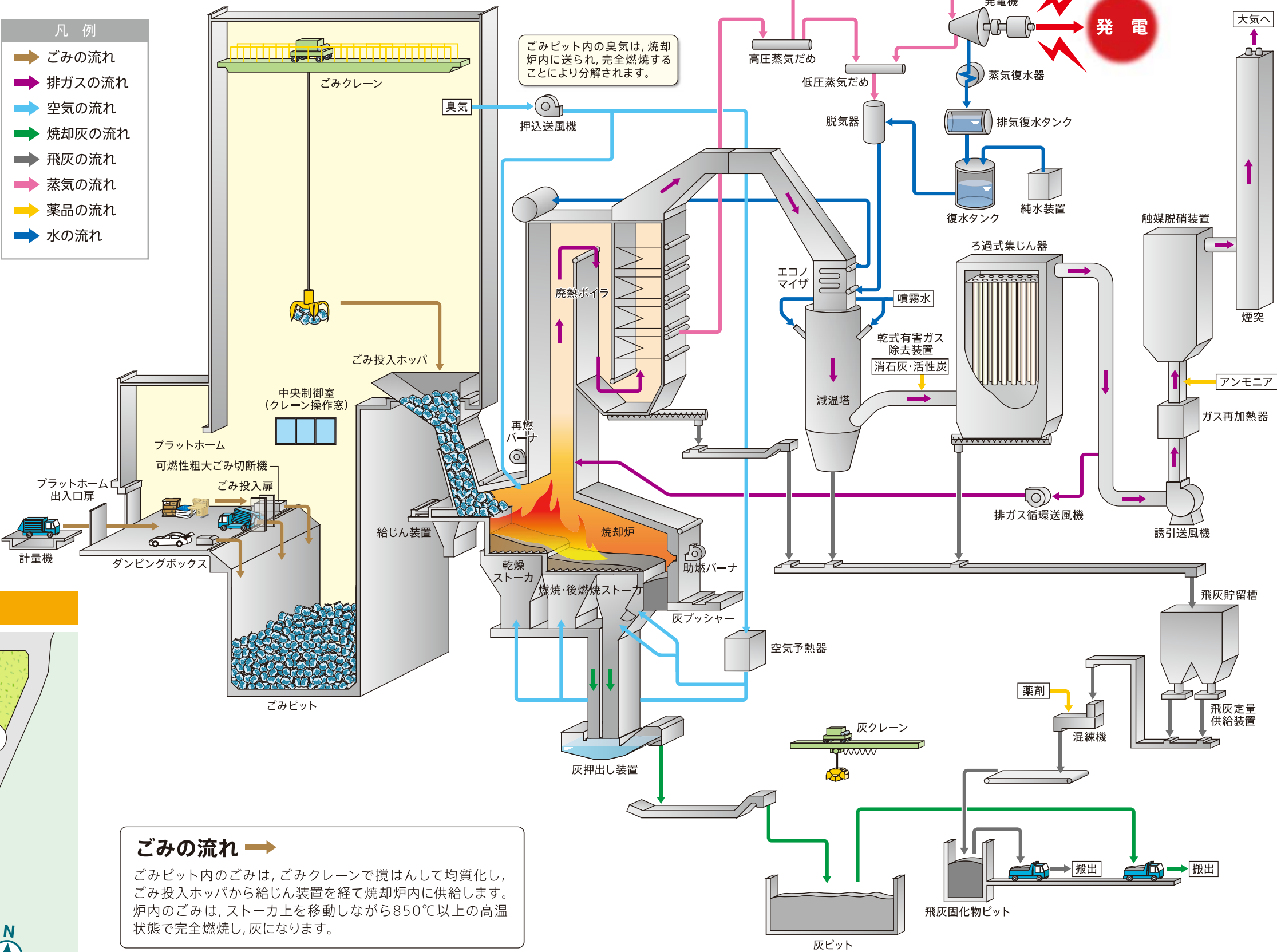
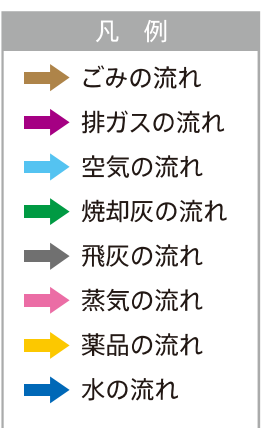
環境保全計画値（排ガス）

項目	自己規制値	法規制値
ばいじん(g/Nm ³)	0.02以下	0.08以下
硫黄酸化物[SOx] (ppm) (K値)	30以下 (約0.1)	— (14.5以下)
塩化水素[HCl] (ppm)	50以下	430以下
窒素酸化物[NOx] (ppm)	70以下	250以下
ダイオキシン類(ng-TEQ/Nm ³)	0.1以下	1.0以下

施設配置図



ごみ処理の流れ



ごみの流れ →

ごみピット内のごみは、ごみクレーンで攪はんして均質化し、ごみ投入ホッパから給じん装置を経て焼却炉内に供給します。炉内のごみは、ストーカ上を移動しながら850℃以上の高温状態で完全燃焼し、灰になります。

排ガスの流れ →

焼却で発生した排ガスは、薬剤吹き込み後、ろ過式集じん器でダイオキシン類やばいじん等を捕集し、触媒脱硝装置で窒素酸化物を除去して自己規制値を満足した状態で、煙突から排出されます。

焼却灰・飛灰の流れ →

焼却灰は灰押し出し装置で冷却されたあと、場外へ搬出されます。また、廃熱ボイラ、減温塔、ろ過式集じん器で捕集された飛灰は、薬剤処理後、場外へ搬出されます。

蒸気の流れ・発電の仕組み →

廃熱ボイラで排ガスの熱を回収して作られた蒸気は、蒸気タービン発電機で発電に利用されます。発電された電気は施設内で使用するほか、余剰分は売電します。